

米国CO₂-EORプロジェクトにおけるCO₂回収量累計100万トン達成について

各位

JX石油開発株式会社

当社(社長:三宅俊作)は米国テキサス州において石炭燃焼排ガスから回収したCO₂を利用した原油増産(CO₂-EOR)プロジェクトを推進しておりますが、今般、CO₂の回収量が累計で100万トン(注1)に達しましたのでお知らせします。なお、この量は約40万台の自家用車が1年間に排出するCO₂量に相当します(注2)。

本プロジェクトは、当社と米国の大手電力会社NRG Energy, Inc.(以下「NRG社」という。)が合併で進めているもので、米国テキサス州のNRG社・W.A.パリッシュ火力発電所(注3)の石炭燃焼排ガスから回収したCO₂(注4)を同州内のウェスト・ランチ油田(注5)まで輸送し、老朽化した油田に圧入・貯留することにより、原油の大幅な増産と大気中へのCO₂の放出量削減を同時に実現しています。

当社がこのプロジェクトで用いているCO₂-EOR(Enhanced Oil Recovery:石油増進回収)は、地球温暖化の原因となるCO₂を地中に圧入することで、油田の生産性を高める技術であり、火力発電所から排出されるガスを活用して商業化を実現した点で、特に先進的なものと考えています。

当社は、CO₂-EORを重点技術の一つと位置付けて取り組んでおりますが、今後も新たな価値を生み出すことに挑戦し、環境と調和した、持続可能で活力ある未来づくりに貢献してまいります。

以上

注1 100万ショートトンになります。ショートトンとは米国で一般的に使用される質量の単位で、1ショートトンは約907kgです。

注2 「自家用車1台あたりのCO₂排出量年間約2,300kg」から算出(参考:関東森林管理局HP
(<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/iwaki/knowledge/breathing.html>))

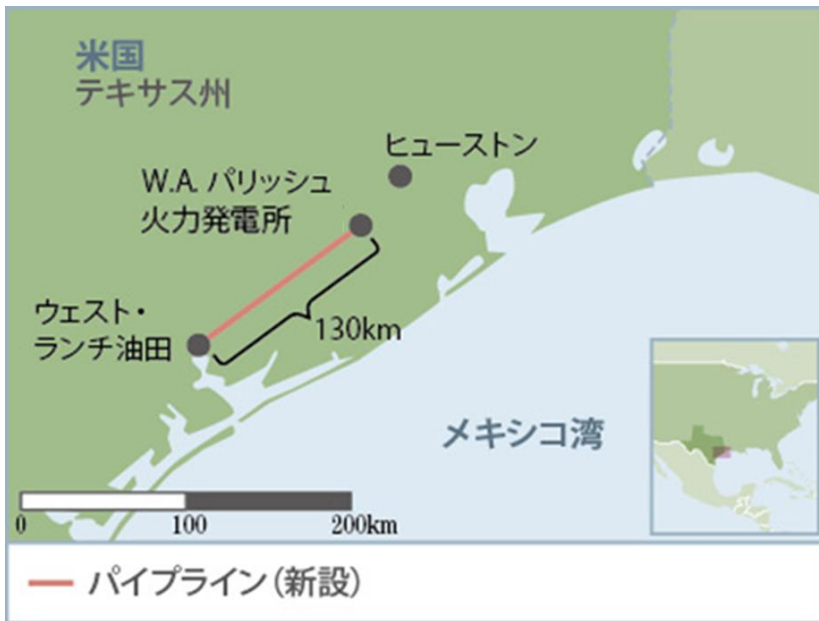
注3 テキサス州ヒューストン市南西部に所在する米国最大規模の火力発電所です。

注4 このプロジェクトのCO₂回収プラントの回収能力は日量4,776トン(5,265ショートトン)であり、燃焼排ガスからCO₂を回収するプラントとしては世界最大規模となります。

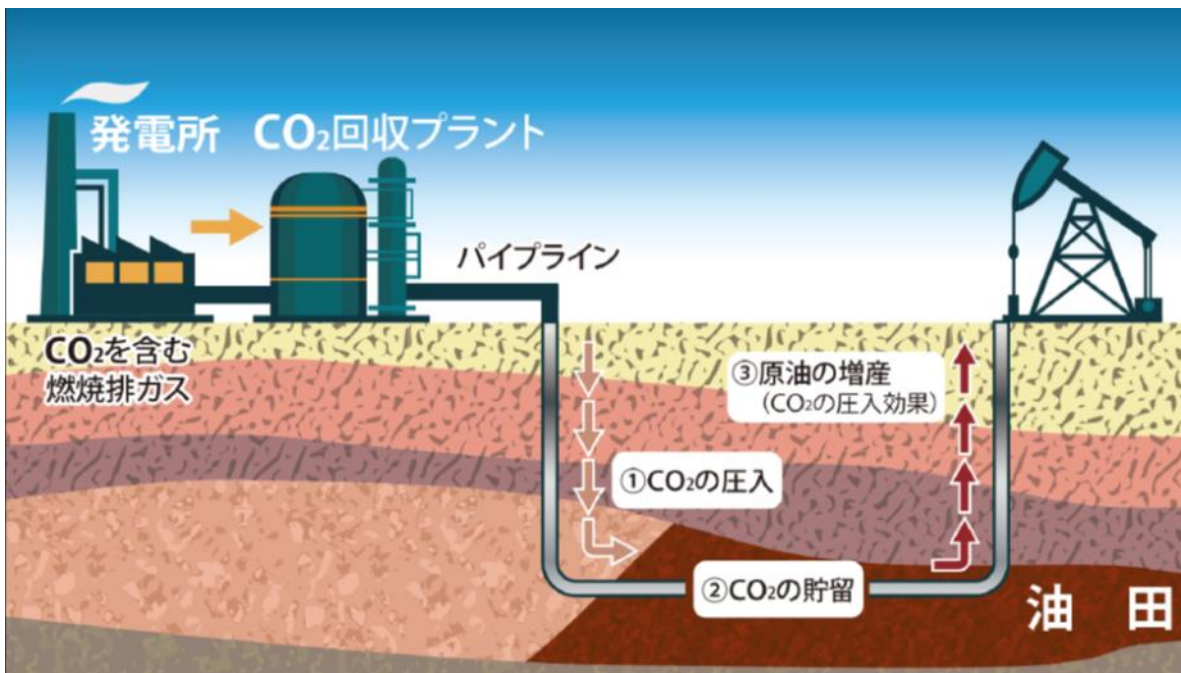
注5 W.A.パリッシュ火力発電所の南西約130kmに所在する陸上油田で、当社は、NRG社との合併会社を通じて同油田の権益25%を保有しています。なお、発電所から油田までは新設したパイプラインでCO₂を輸送しています。

【添付資料】

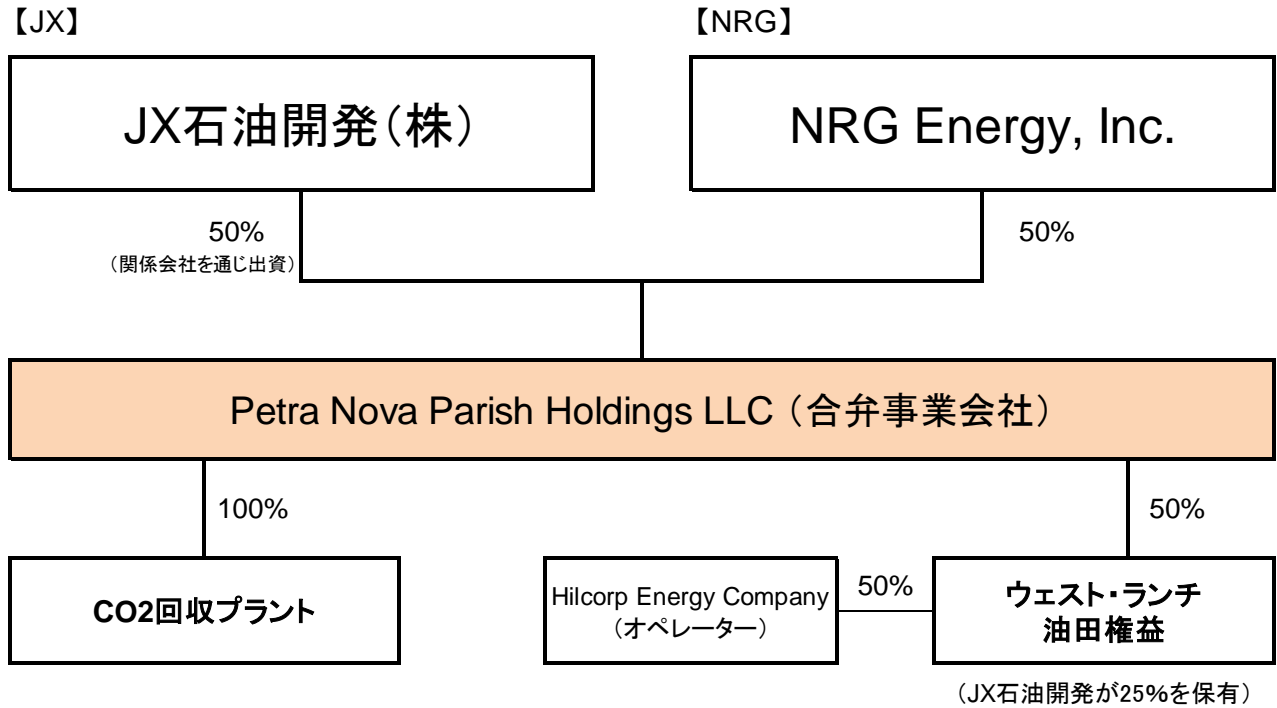
1. 位置図



2. プロジェクト概念図



3. プロジェクトのスキーム



4. NRG Energy, Inc. の概要

- (1) 業態 米国大手発電・電力卸・小売業者
- (2) 設立 1989 年
- (3) 本社 米国ニュージャージー州およびテキサス州
- (4) 従業員数 約 8,500 人
- (5) その他 ニューヨーク証券取引所上場

5. ウェスト・ランチ油田の概要

- (1) 所在地 テキサス州ジャクソン郡
- (2) 発見 1938 年
- (3) 累計生産量 約 3 億 9,000 万バレル
- (4) パートナー構成 Hilcorp Energy Company : 50% (オペレーター)
Petra Nova Parish Holdings LLC (合併事業会社) : 50%